

カーシェアリングの普及とCO₂排出削減効果について

自動車からのCO₂排出量は車両保有台数や走行距離により増減。※
カーシェアリングを普及することは、主に年間走行距離の減少につながり、乗用車からのCO₂排出量削減の取組みとなる。



作 花袋べろり

第3話 シェアリングエコノミーで省エネの巻



COOL
CHOICE

カーシェアリングにすると、年間の燃料費が約10万円もお得!?

例えばカーシェアリングの場合、カーシェアリング加入後に自家用車を手放したり、減らした世帯では、走行距離が減り、燃料消費量が大幅に減ることにより、CO₂排出量も大幅に減らしています。

これを年間の燃料費に換算すると、なんと、年間で約10万円もお得になるのです。カーシェアリングは、地球にもお財布にもやさしいことがわかりますね。

カーシェアリング加入前後の変化(※3)
世帯あたりの年間燃料消費量、CO₂排出量、燃料費

①加入前	燃料消費量 (t/(年間・世帯))	762.8
	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂ /(年間・世帯))	1.77
②現在	燃料消費量 (t/(年間・世帯))	105.3
	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂ /(年間・世帯))	0.24
②-①	燃料消費量 (t/(年間・世帯))	*▲657.5
	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂ /(年間・世帯))	▲1.53

年間の燃料費削減額 (* × 151.6 円/L (レギュラーガソリン価格にて計算))

燃料費削減額 (円/(年間・世帯)) ▲9万9,677

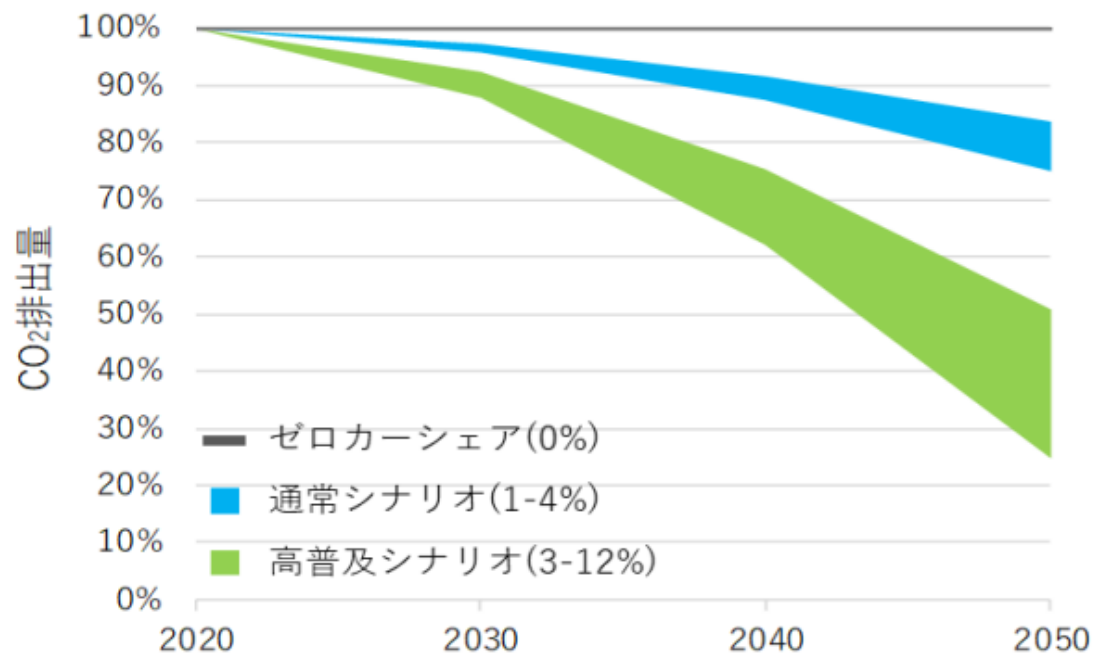
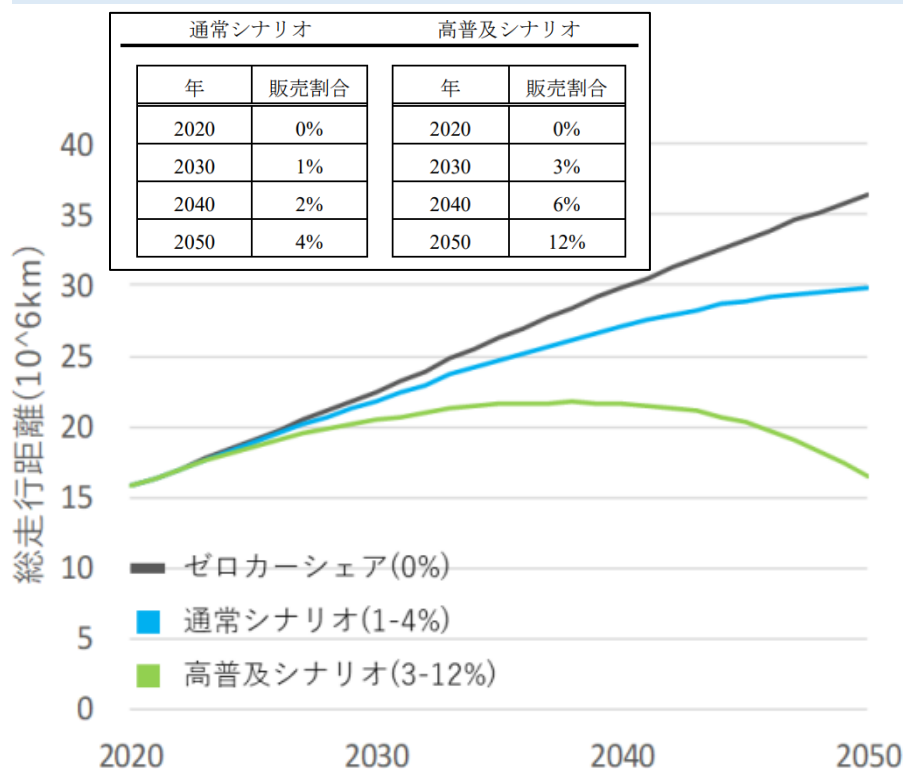
※カーシェアリング加入後、減車した世帯のみ換算

※レギュラーガソリン価格は、資源エネルギー庁「石油製品価格調査」令和2年1月22日時点の現金小売価格

出典：環境省COOL CHOICEウェブサイト

カーシェアリングの普及とCO2排出削減効果について

カーシェアリングの普及による、将来（2050年）のCO2排出量削減効果は、通常シナリオ（2030年に新車販売台数の1%がシェアカー）では**16~25%**、高普及シナリオ（2030年に新車販売台数の3%がシェアカー）では、**48~75%のライフサイクル CO2 排出量の削減**になると推計されている。削減の主な要因は乗用車の**保有台数減少に伴い、年間総走行距離が大きく抑制**されること。また第二の要因としては非シェアカーに比べシェアカーの寿命は短く、車両更新頻度が高くなることにより、**より新しいCO2排出量が少ない車両の保有比率が高まる**ことによりCO2排出量が削減される点が挙げられている。



出典：Journal of Japan Society of Energy and Resources, Vol. 42, No. 3
車両電動化及びカーシェア普及が温室効果ガス排出量へ与える影響